

はやくも二月、如月です。

今年は「うるう年」。今月は29日まであります。一日多くなっても、学校の多忙さは変わらずです。大学入試が集中し、高校入試も始まります。生徒も先生も厳寒のなかでの緊張の日々が続きます。経済に需要と供給があるのと同じように、送り出す側の仕事だけでなく、受け入れる側の仕事もあり、先生方は二重に大変です。

とはいえ、このような試練の日々があるからこそ、生徒は成長することも事実で、「教育の成果このひと月にあり」とも言える貴重な月かもしれません。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

1月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

年次大会の案内、部会の案内を紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

1月に行われた活動を報告します。

■新しい教材がアップされました

東京都会を中心に活動している教材開発委員会が取り組んでいた二つの教材が完成して、先生方に利用できるようになりました。

一つは、高校生向け経済教育資料「あなたはアリ？ それともキリギリス？」（都立府中東高 塙枝里子先生作成）です。これは、時間の経済学をベースとした経済学習の新たな試みの教材です。

もう一つは、中学生・高校生向け経済教育資料「コスト感覚をみがこう！♪もうけるたこ焼き屋ヤッキー」（筑波大学附属中 升野伸子先生作成）です。これはたこ焼き屋の経営をとおして「生産のしくみ」を考えるもので、中学の生産の仕組みや、高校の企業の学習で活用できる教材です。

どちらも、日本経済教育センターのHP（以下のアドレス）からダウンロードが出来ます。ご活用ください。

<http://keikyo-center.or.jp/>

■京都部会（No.31）を開催しました

日時：2016年1月15日（金）19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館 4 階第二共同研究室

内容の概略：近畿地方における環境保全についての教材開発など

詳細については以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto032report.pdf>

■冬の経済教室 in 東京を開催しました

日時：2016 年 1 月 23 日（土） 14：30～16：30

場所：LMJ 東京研修センター

内容の概略：参加者 44 名。

- (1) 篠原代表の挨拶のあと、宮尾尊弘先生（筑波大学名誉教授）の二つの講義が行われました。
 - (2) 一番目は、現実の経済的な 이슈（論点）から始めて、生徒たちに経済への興味を持たせる教え方に関する講義です。ここでは、「TPP に賛成か反対か」「COP21 のパリ協定は環境政策に有効かどうか」などの 이슈からはじめて、生徒の経済的な知識（ハードスキル）と社会性や共感力、批判力であるソフトスキルを同時に向上させる学習方法が提案されました。
 - (3) 二番目は、公共経済を教えるためのゲームによる方法の講義です。参加者が囚人のジレンマに設定したじゃんけんゲームを行い、その構造から協力を必要とする公共の活動の難しさを認識し、それをいかに成立させるかを考えさせてゆくという授業の提案がされました。
 - (4) 宮尾先生の講義を受けて、金子幹夫先生（平塚農高初声分校）が高校の教育現場の視点から、ユニークな授業例と教材案を提示しました。
 - (5) 最後の参加者との質疑応答では、評価の方法や囚人のジレンマゲームの導入の可否など、質問や意見が多数出されましたが、アクティブ・ラーニング、課題中心の学び方の重要性については参加全員が認識して熱心な議論が行われました。
- 当日の詳細に関しては、下記の HP を参照してください。

なお、宮尾先生のブログにも当日の教室の内容がアップされています。これもご参照ください。

<http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2016-01-23>

■冬の経済教室 in 札幌を開催しました

日時：2016 年 1 月 30 日（土） 13：00～17：00

場所：キャリアバンク セミナールーム

内容の概略：参加者 46 名。

開会挨拶 篠原 総一（経済教育ネットワーク代表）

『経済学習におけるアクティブラーニングの進め方』

大杉 昭英（国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長）

『経済の流れから国民所得を読み解く～見方・活かし方～』

小巻 泰之（日本大学経済学部教授）

『時間の経済学～あなたはアリ？それともキリギリス？～』

埜 枝里子（東京都立府中東高等学校教諭）

閉会挨拶

川瀬 雅之（札幌清田高等学校）

詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/2016%20Fuyukeizai/FuyukeizaiSapporoReport.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベントの予定です。

■ 年次大会を開催します（既報）

日時： 2016年3月19日 13:00～16:40（受付12:30より）

場所： 同志社大学 寧静館

内容、以下のような内容です。

第一部：新しい経済教育の実践提案

高等学校を中心に、アクティブラーニング（群馬県立赤城特別支援学校上原功先生）、選挙の経済学（西九州大学松井克行先生）、直接金融・間接金融（同志社大学野間敏克先生）に関する斬新な実践提案をしていただき、教材としての有効性を確認するという企画です。

第二部：高校入試問題を通じた中学経済授業の改善提案

最近の高校入試問題には、かなり意欲的なものが出てきています。入試対策を経済の授業改善につなげる道を考える企画で、次の三人の先生方が分析と提案を行います。

大阪狭山市立南中 奥田修一郎先生

札幌市立簾舞中学校 山下豊先生

大阪府立交野支援学校四條畷校 関本祐樹先生 です。

参加方法は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Sympo/20160319Symposium.pdf>

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■ 名古屋部会（No.5）を開催します

日時：2016年2月6日（土） 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟3階303講義室

名古屋駅より、地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車6番出口より左へ徒歩5分

内容、参加方法の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya005Rflyer.pdf>

■大阪部会 (No. 47) を開催します

日時：2016年2月6日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17 階

内容、参加方法の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka47flyer.pdf>

■東京部会 (No. 81) を開催します

日時：2016年2月25日(木) 19:00～21:00

場所：日本大学経済学部 本館 2 階中会議室

内容、参加方法の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo081flyer.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■古文や漢文のなかの経済に目を向ける

今回は、高校向けですが、中学でもヒントになると思います。

古文という科目があります。易しいところだと『今昔物語』や『宇治拾遺物語』などの説話、難しいものでは『源氏物語』などを学びます。説話は中学の国語でも勉強します。

この古文、生徒にはあまり人気がないようです。こんな昔の話や文法をどうして勉強するのか、と思う生徒は多いのではないのでしょうか。漢文も同様かもしれません。

ところが、古文の中には、経済に関係する話が意外と多くあるのです。例えば、江戸時代の伝奇物である上田秋成の『雨月物語』第十話に「貧富論」というお話があります。

会津に岡左内という無類の金好きで、周りから守銭奴とものしられている武士がいて、その枕元に黄金の精霊が訪れるという話です。二人は、清貧を唱え、国の経営のもとである経済を軽んじる武士道を批判し、夜通し論じます。

武士道だけでなく、天命とか前世の因縁で貧富を説く儒教や仏教を批判して、お金は、儉約を守り、無駄をはぶいて、よく正業にはげむ人になつくものと言います。それだけなら単純な話ですが、精霊はなぜ富貴の差が生まれるのかは、昔からまだ結論がでていない議論だとも言います。この話、安土桃山時代を舞台とした話ですが、現代でも十分に通用する話です。

『雨月物語』で古文の教科書に掲載されているのは、都に行って七年戻ってこなかった夫をまって幽霊になってしまった妻を巡る「浅茅が宿」(第三話)という話ばかりです。経済教育の観点からは、ちょっと残念です。

古典から経済への関心を持たせるには、先生方が、越境してどんな話を生徒は古典で学んでいるかを、まずリサーチして、経済の授業の合間のエピソードとして、「君たちが勉強しているテキストの別の箇所にはこんな経済に関するおもしろい話があるんだよ」とアドバイスしてみるとよいかと思います。

とはいえ、経済に関する箇所を探すのは、結構やっかいです。でも注意してみれば、漢文でいえば、司馬遷の『史記』には「貨殖列伝」というそのものズバリの話もあります。先ほどの「浅茅が宿」だって、夫は足利染めの絹を都に売りにゆくことから悲劇がはじまるのです。そこから、室町時代の商取引の様子がわかります。『徒然草』にも、結構お金に関わる話があります。

そんな昔学んだ古典を思い出して、教科書や現代語訳版の本をひっくり返して、経済授業のネタ探しをすることは、同時に古典の面白さを再発見するという一石二鳥の楽しみなるかもしれません。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

申年は荒れるという話がありますが、年明けから政治・経済ともに荒れ模様の年になっています。1月末には、日銀がマイナス金利導入というニュースが飛び込んできました。こんな時には、日々のニュースを読み解くと同時に、経済の原理に戻ったり、歴史的な視点からどうなのかを振り返って、吟味してみることが肝心かと思います。そんなことを思っていたら、昔漢文で習った温故知新という言葉がフッと出てきました。若い時の学びは、一生ものなのかもしれませんね。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇